

花の里づくりの会

第8号会報2012年4月1日発行



百日紅の花

蓮華寺は、新羽町の北側に位置し、境内には、銀杏、楠木等の古木がある。本殿入り口には、百日紅が毎年きれいに咲きそろう。

蓮華寺は、(新編武蔵風土記稿)に拠れば泰榮山、蓮華寺と号し、新義真言宗、川崎市麻生区の飛び地岡上、東光院末寺で1810年頃火災に遭い、記録は焼失されているが応安(1368年)頃に建立されたと伝わる。

本尊は大日如来像で腹中に行基作の大日を納むと伝う。その他寺宝は不動明王、興教大師坐像、弘法大師坐像、観世音大菩薩(腹中仏)がある。

境内左側に薬師堂があり都筑・橘樹十二薬師の一番薬師如来として、また目の薬様として毎年7月8日にご開帳されている。堂内には、十二神将、奪衣婆、め絵馬等が収められている。



ごあいさつ



会員の皆様には、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

おかけ様で、会の運営、植栽事業も、皆様のご理解とご協力によりおおむね計画通りに進めることができいております。

それから、今年は喜ばしいことがございます。それは、蓮華寺さんが新たに「花の里づくりの会」にご参加くださった事です。今後は、ご希望にそった形で植栽等を進めていきたいと存じます。

さて植栽事業のひとつでもあります、新羽小学校の6年生による卒業記念植樹は、早いもので平成23年度で7回目となります。第1回（平成17年度）に「ときわやまぼうし」を植栽された生徒さん達は、高校を卒業され、大学へ、あるいは社会へと進まれることでしょう。

植栽の時には、ほんの1.5メートル程だった「ときわやまぼうし」も、今では見違えるほどに大きくなりましたが、それに負けないくらい生徒さん達も立派に成長されていることと思います。今後も、記念植樹をはじめ、様々なところへの増殖を通して、子供たちには「希望」を、また、他の方々には「楽しみ」のひとつとして四季折々の美しい花々を提供していけるよう努力をしままいりますので、変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

花の里づくりの会 会長 中山 宏



平成17年にこの木を植えた卒業生が、今年の写真を送ってくれました。

平成 23 年度の植栽及び事業実績

- ◆新羽丘陵公園◆
丘陵公園の花壇の植栽に補助
- ◆県立新羽高等学校◆
通学路の美化整備の花の苗の協力：年 2 回
- ◆市立新羽小学校 卒業記念樹◆ 計 7 回
サルスベリ 2 本
- ◆光明寺◆
ヤマブキ 20 本、シャクヤク 20 株
- ◆西方寺◆
ツバキ 20 本、ウツギ 20 本
- ◆善教寺◆
モミジ 10 本、ユキヤナギ 20 株、キキョウ 30 株

平成 24 年度の植栽及び事業予定

- ◆新羽丘陵公園◆
丘陵公園の花壇の植栽に補助
- ◆県立新羽高等学校◆
通学路の美化整備の花の苗の協力：年 2 回
- ◆市立新羽小卒業記念樹◆ 計 8 回
未定 2 本
- ◆専念寺◆
整備が終わり次第、モミジと桜を中心として植える
- ◆光明寺◆
ヤマブキ 30 本、シャクヤク 20 株
- ◆杉山神社◆
必要があれば植える
- ◆西方寺◆
ツバキ 20 本、ヒガンバナ 黄 200 球、赤 500 球、白 200 球、ピンク 200 球
クリスマスローズ
- ◆善教寺◆
雪柳 20 株、ドウダンツツジ 10 本、モミジ 5 本、酔芙蓉 10 本
- ◆蓮華寺◆
しだれ桜 3 本、ちぢみもみじ 3 本、日本水仙 100 球
- ◆その他◆
枯れた木などの補植

新羽丘陵公園での卒業記念植樹



記念植樹をやってみて、びっくりしたこと
があります。それは私が苗の状態で見えるの
かと思っていながらです。でも実際はちが
りました。最初から自った状態でした。自分か
らすると、小さい時から成長を見ていた
いかっただです。

でも、記念に残せることができ良かった
です。自分たちと一緒に成長する木の姿を見
て嬉しかったです。

中條 未悠

今日記念樹のサルスベリを植えました。卒
業まであと1日で、まだ卒業という実感があ
りないのですが、植樹していいよなんだ
なくと、うれしいうら悲しいやら、いろいろ
な気持ちがあふれてきました。

でもサルスベリの木が一年一年大きくな
るうちに、自分も一年一年成長して行きたいと
いう気持ちを持ち頑張って行こうと思いまし
た。

山崎 達哉



山口 麗奈

わたしは、なぜ植樹などをやるのか疑問でした。だけれどそれは、何年後かにわかるらしいです。自分の中では、今はまだ全くわかりません。この先、どう思うか楽しみです。

植えた木の名前はサルスベリです。サルスベリの意味は、「木のはだがなめらかで、サルもすべるといふ意味」です。わたしは、そんなすべる木みたいにな、スイスイ成長していきたいです。ときどき見に行きたいです。

生田 鳩 雄大

今日の記念植樹で、区長さんが、「記念植樹の意味は、五年、十年くらいしないと分からないと思います。」と、言っていました。

ぼくは、区長さんの言ったことを考えて、意味が分かるまで、考え続けようと思いました。なぜなら、五年、十年考えたら考えがどんどん変わり、いつか意味が理解できると思っていたからです。



木を植えた、それはサルスベリの木だ、た。それは、どんなに木が登れるサルスベリも登れない木。ほくはこの木は、たれにでもたぬなものがあるといふ意味だと思つた。だが、植える時にあきらめないといふ気持ちを一緒に植えた。この木はどんなに強い風が来てもあきらめないといふ気持ちを込めた。また、失敗するのち当然だと学んだ。手伝つてくれた、地域のみなさんに感謝したい。

佐々木 亮人

伊藤 七虹

今日の植樹で学んだことが二つあります。一つ目は、やはり地域の方々との協力です。植える場所の用意から寄ふまでして下さって、本当にありがとうございます。

二つ目は、区長さんもおっしゃっていた、植樹の意味です。卒業の記念はもちろん、私達と一緒に成長する木も大人になって、私は木も人間も仲間なんだという気がしました。なので、大人になつたら会いに行きたいです。



百日紅（さるすべり）

新羽小学校長 渡部 洋久

卒業記念樹と言っても、ぴんとこない人もいるかもしれません。私が中学生の頃だったと恩います。テレビで、「記念樹」（木下恵介監督作）というドラマが放送されていました。孤児院の保母をしていた先生は、結婚して孤児院を去るとき、孤児院の子供たちと一緒に、桜の木を記念樹として植えました。その先生が10数年して、孤児院に戻ってきてからのことが、ドラマとなっていました。成長した教え子と先生が、記念樹によって強く結びつけられていることが強く印象に残って、すばらしい先生にあこがれたものです。私にとっての記念樹のイメージは、今も、このドラマ「記念樹」の中の先生と子供たちの心を強く結びつける絆としての桜の木です。

そのドラマの歌詞を今でも口ずさむことができます。

桜の苗が大きく育つ頃／ほくらはみんな大人になるんだ／あいつとこいつ／おまえもおれも／真っ赤なほっぺをしているが

平成23年度卒業生は、百日紅の木を、記念樹として植えました。百日紅の木というと、原爆記念日や終戦記念日の頃、8月の熱い日差しの中で、咲いている赤い花を思い出します。

炎天の／地上花あり／百日紅

と高浜虚子も詠んでいるように、百日紅は強烈な夏の日差しに負けずに咲く花なのです。

小学校を卒業したみなさんは、これから様々な苦難に出会います。そのような時でも、絶対に負けずに頑張れと、地域の人たちが応援する気持ちを込めて贈ってくださったもので、「記念樹」のドラマのように、いつまでも小学校時代の子供たち同士、先生との絆を大切にして欲しいという思いも込められたものだ、わたしは思うのです。

平成24年3月6日

新羽丘陵公園での卒業記念植樹風景



卒業記念植樹

たくさんの方々の思いが込められた、7回目の記念植樹が行われました事に感謝と喜びを感じます。

今回、植えられましたサルスベリの木が夏にはたくさんの花を咲かせ、子どもたちの新しいスタートを応援してくれることと思います。

子どもたちが、何年たっても、ここを訪れて小学校時代に思いをはせてもらいたいと願っています。

新羽小学校PTA会長 小山正博

県立新羽高等学校の通学路美化整備



お礼状 県立新羽高等学校 副校長 布川 勝也

本年度も、新羽高校敷地内大竹・亀の甲橋側入り口にある三角地の緑化整備費用として、「花の里づくりの会」様より予算上の措置をいただき、誠にありがとうございます。おかげをもちまして、6月15日にはマリーゴールド・ペゴニア・ペチュニアを、11月16日にはパンジー・ノースポール他を生徒が中心となってプランターに植栽、その後は大切に水遣りし、十分な成果を収めることができました。

平成19年までの大竹・亀の甲橋側入り口は、背の高い雑草により見通しが悪く、登下校の際の安全確保に支障がありました。が、「花の里づくりの会」様のご支援を受け、現在のように安全かつ美しく整備されました。

本校の教育計画は、環境教育と平和教育を二つの柱としています。今後とも、緑化活動のみならず、本校の教育活動につきまして、より一層の御協力とご指導をくださいますようお願いいたします。



光明寺



光明寺の植栽は、おおまかに分けると本堂の周りと裏山の地域になります。本堂の周りで、現在一番勢いがあるのは、酔芙蓉でしょう。夏から秋にかけては、人の背丈を超えるほど成長し、多くの花をつけます。同じ場所に昨年、シャクヤクを植えました。これは、春に大きな花を咲かせています。更に増やしていく予定です。裏山では、ジエビネが約一千株が群生しており、春には見事な花をつけます。また、とても珍しいものも含め様々な種類のシャクナゲが植わっており、一本一本異なった美しい花をつけています。

善教寺



春には雪柳、冬には水仙。そして、小さいながら印度菩提樹が育っています。

西方寺



●曼珠沙華・赤の曼珠沙華は参道に、白は石段左側に、黄色は石段右側にそれぞれ植えてあります。特に昨年は黄色が見事に咲き、3色の曼珠沙華が咲くのはとてもめずらしいらしく、T V K テレビ・神奈川新聞にそれぞれ放映、掲載され、多くの方が見にいっていらっしゃいました。●椿……だいふ木が増えました。様々な種類があり、小さい花から大きな花まで咲きます。冬から春にかけて長く花を楽しめます。●クリスマスローズ……昨年、さらに植え増ししました。特にトイレの花壇のは株が大きく花もたくさんつきます。

これまでに植えた花木たち



本会の趣旨に賛同して参加いただける会員と新たな候補地としての寺社仏閣を、募集しております。ご希望の方はお申し出下さればご説明させていただきますので、会長宅までご連絡下さい。

花の里づくりの会 会報第八号 **2012**年**4**月発行

発行者 花の里づくりの会 会長 中山 宏

お問合せ先 045-541-5578 (事務局 中山宏 宅)